

国立中央大学（台湾）

国際文化交流学部 国際文化交流学科 土橋 香乃

留学期間：2019. 8. 30～2020. 3. 31

台湾での留学生活が3ヶ月余り過ぎた今、振り返ってみると、どの一瞬も私にとって今しかできない貴重な経験になっていることを実感します。そこで、私の国立中央大学での生活の一部を紹介します。

まず、大学のキャンパスは、自然豊かでとても広く、落ち着いた環境です。様々な国籍や幅広い年代の学生と一緒に学んでいます。学校が主催するイベントもあり、本当に多くの人と関われるので、友達もたくさんできます。

次は、私が受けている授業についてです。私は中国語の授業を3つ、英文科の授業を1つ履修しています。その中でも毎朝2時間ある中国語のクラスでは特に成長を感じています。授業は全て中国語で、最初は先生の話す中国語が速すぎてほとんど内容が聞き取れませんでした。



さらに、同じクラスの人みんな中国語が流暢で、聞き取りもちゃんとできていたので、私は周りについていくのでやっとでした。でも、毎日毎日授業に出ているうちに、よく使う単語、授業のペースが少しずつ、確実にわかっていって、中国語を勉強するのが楽しくなっていました。先生が口で説明したことをメモしたり、クラス内での話に遅れることなく笑ったりできるようになったことも、自分なりに“前進”と感じています。自信のなかった留学当初と比べたら、中国語に対して身構えることがなくなったように思います。



最後は、台湾での生活についてです。今回が人生で初めての一人暮らしだったので、初めは不安しかなかったのを覚えています。でも、大学の事務の方やバディの学生、大家さんたちが様々な面でサポートしてくれるので、安心して生活できています。また、台湾の文化として、食事は基本的に外食なのですが、大学の近くにたくさんご飯屋さんがあり、日本人の口に合うものがたくさんあるので、いかに太らないかだけが問題です。生活用品も何でも揃っているし、食事と同じくとても安いので生活には全く困らないところも良いです。

これまでが、本当にあっという間でしたが、とても濃い日々を送っています。授業以外にクラブ活動に参加したり、他の留学生たちと夜市に行ったり、台湾人の友達とご飯を食べた

りお喋りしたりと、どれもとても価値のある時間です。やっと慣れてきたと感じる今となつては、まだ半年いたいと思うほど私にとって居心地のいい場所です。自分の肌で感じたことなどを思い返すと、台湾への留学の機会に恵まれて良かったと心から思います。